

何を明らかにしたか？ 太陽観測衛星「ひので」は

太陽が犯人？—地球は寒冷化するか—

2006年に打ち上げられた太陽観測衛星「ひので」は、5年間にわたって太陽の観測を続け大きな成果を挙げてきました。

10年の長きにわたる「ひので」の構想から製作、打ち上げまでの様子を紹介し、「ひので」による新しい太陽像を分かりやすく説明します。

また、「ひので」の観測結果をもとに、太陽活動と地球環境の関係について考えてみたいと思います。

ひので
(国立天文台/JAXA)



TSUNETAKU

講師 **常田 佐久**

国立天文台教授・ひので科学プロジェクト長

1954年生まれ。東京大学理学部天文学科卒業、東京大学大学院理学系研究科天文学専門課程博士課程修了。理学博士。専門は太陽物理学、飛翔体天文学。日本学術振興会研究員(宇宙科学研究所)、東京大学助教授等を経て、現在、国立天文台教授。ひので科学プロジェクト長、先端技術センター長。太陽観測衛星「ひので」、「ようこう」、「ひのとり」の3機の太陽観測衛星の開発に関与した。現在の研究課題は、「ひので」による太陽・宇宙の電磁流体現象の観測的研究、NASAとの観測ロケット搭載装置の共同開発、次世代太陽観測ミッションSOLAR-Cの立ち上げなど。著書に、太陽活動の謎。平成21年日本天文学会林忠四郎賞。

2012
11.20火

18:30~20:00
(開場18:00)

入場無料 定員140名(先着順)

土岐市産業文化振興センター
(土岐市土岐津町高山4番地)

セラトピア土岐

お問い合わせ

自然科学研究機構 核融合科学研究所 大学院連携係
〒509-5292 土岐市下石町322-6

TEL.0572-58-2843 FAX.0572-58-2603 <http://www.nifs.ac.jp/>

主催 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所

後援 文部科学省／岐阜県／岐阜県教育委員会／土岐市／土岐市教育委員会／
社団法人プラズマ・核融合学会／核融合科学研究所／中部ESD拠点協議会*

*中部ESD拠点は国連大学に認定されています